

人が「生きる」姿を読む

「悲しみ」と「希望」をキーワードに

教科書三年第四單元
状況に生きる
人間の生きる姿をとらえよう (読五)
故郷 小説 随筆
二つの悲しみ
お辞儀するひと 詩
視野を広げ、考えを深めよう (書三)
表現のしかたを工夫して書く
自分の考えを訴えよう (話・聞一)
聞き手の心に届くよう「スピーチ」する
【十時間配当】



一 基本的な考え方

学習のとらえ方

この單元では『故郷』(小説)、『二つの悲しみ』(随筆)、『お辞儀するひと』(詩)の三つの学習材がメインとなり、その学習をもとにして「書くこと」「話すこと・聞くこと」の学習が展開できるように構成されている。教科書の中でも最も読みこたえのある單元であるので、「読むこと」を中心とした学習を計画した。

どの学習材もテーマは重く、描写や心情も奥深いので、学習者は読み解く糸口を見つけにくい。そこで、単元全体を読み解くためのキーワードを用いて、作品理解と単元のねらいに導くことを考えた。そのキーワードとしては、「悲しみ」と「希望」を選んだ。

学習の進めやすさを考えて、学習材の順序を入れ替え、「二つの悲しみ」、『お辞儀するひと』、『故郷』の順とした。これは「悲しみ」から「希望」へとキーワードを追っていくほうが効果的だと考えたからである。

また、作品のスケールの大きさと、「悲しみ」と「希望」という二つのキーワードがはっきり表現されているという点から考えて、『故郷』に重点を置くように構成するのが自然だと考えた。

『二つの悲しみ』で、筆者が体験した二つの「悲しみ」。

『お辞儀するひと』で、劉桂琴^{リウケイキン}さんが日本で感じたさまざまな思い。『故郷』の中で、「わたし」が故郷を去るに際して感じた思い。これらは、時代も国も状況もさまざまであるし、決して「悲しみ」と「希望」に収れんできないような単純なものではない。しかし、これらの作品を「悲しみ」と「希望」という二つのキーワードを糸口として読み解いていくことで、より深い読解が可能になると考える。

奥深い表現の読解を通して、学習者が人間の生き方、社会と人間の関係について、自分の意見をもつように変容することが期待される。

学習の流れは次のとおりである。

それぞれの学習材について、いつの時代の、どこの国の、どんな状況が場面になっているかを調べ、その結果を発表し合う。この活動は、文章の概要をとらえる読みである。読み取りが主であるので、調べ学習に傾斜し過ぎないようにした。

「悲しみ」ということが明らかに表現されている』『二つの悲しみ』を学習する。肉親を亡くした二人の描写に注目し、その人物の「悲しみ」の姿と作者の思いを考えていきたい。

『お辞儀するひと』を学習する。肉親に会えなかった

劉さんの状況からその「悲しみ」を想像し、作者の劉さんへの思いを考えていきたい。

『故郷』を学習する。二つの学習材で学習した人間の「悲しみ」を考えながら作品を読み進め、最後に「希望」について、個々の意見がまとめられるように学習を進めていきたい。

なお、ここでは「読むこと」の学習だけに内容を絞り、「書くこと」「話すこと・聞くこと」に関しては、ほかの單元で扱うこととする。

この学習で身につけさせたい力
学習指導要領(「読むこと」)

ウ 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。

エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。

読むこと目標

- ・登場人物の描写や心情の変化に注意して読み、作者の思いを読み取ること。
- ・さまざまな状況のなかで生きる人間と社会との関係について理解し、自分の考えをもつこと。

二 観点別評価の進め方

「おおむね満足できる」状況と判断するための視点

関心・意欲・態度：作品に描かれている人々の生きる社会や生き方について、理解しようとする意欲がある。
読むこと：登場人物の置かれている状況・心情を理解し、人間と社会について意見を持つことができる。
「努力を要する」状況にある学習者への対応
作品に出てくる登場人物に焦点をあて、その描かれ方を具体的に読み取らせる。

三 指導と評価の計画例（十時間）

第二次 (二時間～三時間)	第一次 (一時間～二時間)
<p>『一つの悲しみ』を読んで、二人の登場人物の描写を読み取り、その「悲しみ」について書くこととした作者の思いをとりあげる。(一～二時間) 『お辞儀するひと』を読み、劉さんの置かれている状況、行動から思いを読み取り、作者の思いをとらえる。(一時間)</p> <p>* 評価：それぞれの作品の登場人物の悲しみを読み取り、作者の思いをとらえることができたか。</p>	<p>三つの作品の背景について調べる。 いつの時代か・どここの国か・どんな状況がそれぞれ発表する。 * 評価：作品の時代背景について関心をもって調べることができたか。</p>

第四次 (一時間～二時間)	第三次 (四時間)
<p>故郷を立ち去る「わたし」の「希望」について、自分の考えを文章にまとめる。 * 評価：「わたし」がいう「希望」について、考えたことを文章にまとめることができる。</p>	<p>『故郷』を読み、「わたし」が故郷で感じた「悲しみ」と、立ち去るときに考えた「希望」について読み取り、作者の思いをとらえる。 全文を通読し、あらすじをとらえる（語句調べは課題）。 表現のしかたに注意して、「わたし」の感じた悲しみを各場面から読み取る。 ・冒頭の部分：「もともと故郷はこんなふうなのだ」「やるせない」などの表現に注意する。 ・ヤンおばさんの変化：「豆腐屋小町」「コンパス」「行きがけの駄賃」などの表現に注意する。 ・ルントウとの再会：「不思議な画面」「銀の首輪の小英雄」「でくのぼっぴたいな人間」「悲しむべき厚い壁」などの表現に注意する。 これまでの読み取りを踏まえて、「わたし」が故郷を立ち去る場面での「悲しみ」と「希望」を読み取る。 * 評価：故郷の様子や人々の変化をまとめ、「わたし」の「悲しみ」と「希望」を読み取り、作者の思いをとらえることができたか。</p>

四 この学習のポイントとなること

学習材を扱う順序について
「悲しみ」と「希望」というキーワードを糸口にして作品を読み解いていくため、「悲しみ」がはっきり表現されている『一つの悲しみ』を最初に学習し、その後『お辞儀するひと』、最後に「悲しみ」「希望」がはっきり表現されている『故郷』を学習したほうが生徒にもわかりやすく、学習も進めやすいと思われる。

主題と意見について

三年生の二学期での学習であるので、「社会や人生に對して自分なりの意見をもつ」ことを大きな目標として授業を展開していきたい。

ここで大切なのは、学習活動を通して意見をもつことである。太平洋戦争や強国の侵略による社会変動など、この学習を通して知ったことから出発した「自分なりの意見」を期待したい。

イラク戦争などの報道にじかに接している学習者たちであるので、学習材の読み取りとは別の知識や情報をもとに考えたり、テレビのコメンテーターの意見を自分のものとしてしまったりしないように注意したい。

表現のしかたについて

登場人物の描写や心情の変化は、作者の意図や思いが読み取れる部分である。それだけにより広く、より深く読み始めるときりがない。学習活動では、ねらいがぼやけてしまわないように、場面や人物、心情などを限定したうえで読み深めていくようにしたい。また、自分とは異なる読み取りにも接することができるような学習形態も工夫したい。

